



414
A1099



第二章 鐵道會社結構ノ成規

第八條 凡ソ會社ハ政府ノ鼓舞保護ニ因テ興起
完全スト雖モ其始メ之ヲ結構スル素ヨリ人民ノ才覺
方畧ニ存スルハ則チ其約束方法等須カラク其手
ニ成ルヲ以テ上トスヘシ歐米諸邦ノ會社ヲ立ツル皆然
ラサルハ無シ而シテ政府ノ之レク差配保護スル所以ノ方
法モ亦此レニ據テ拮据制定以テ一定條然ノ規^成律^{條例}
ヲ成セリ蓋シ如此ナラスンバ則チ根脚立タズ基本固
カニス實際成績得テ期スベカラス況ヤ此會社ノ如キ
實ニ重大ノ事業ヲ經營シ多少ノ金錢ヲ運動シ以テ

大正十一年四月
天隈侯爵寄贈



内外ノ公益ヲ廣メ上下ノ至便ヲ奏セト欲スルニ於テヤ則チ
會社結構ノ舉ニ在テ又須カラク發起人又ハ主者ラシ
テ其始メ飽迄反復講求辛苦經營セシメ第一社員
ノ身代行狀相共ニ檢討信任遂ニ富實穩當ニ出ツ
ルヲ主トシ其約束方法ノ如キハ則チ一ニ精毅嚴密ヲ
旨トシ要是等々ラレテ諸知安行專ラ擔當ノ他
ヲ占メ應酬ノ實際ニ近ヅクニ至テ已ムベシ但シ歐美諸
邦既ニ一定結社ノ成規アリテ一世ニ傳播セリ而ノ結社
者多^{大抵}ハ是等事業ニ鍊達シ加ルニ老熟ノ法律家
^{下ニ在ル}アリ雇テ以テ拮据制定ノ事ニ從カフ是ヲ以テ是等施

設ニ在テ常ニ其易ヲ見テ未タ其難ヲ見ス本邦ノ如キ
時勢ノ度未タ臻ラス是等事業大抵新奇艱即
チ創立差配ノ方法ニ於テ上下同シク久典遺事ノ憾
ルヲ免レズ故ニ今其大意要件ヲ此ニ掲ケ結社者ヲ
レテ因テ以テ準據制定スル所アラシム
第九條 此會社ハ官ノ事業ヲ引請ケ是レト手ヲ結
以テ一般ノ公益ヲ謀リ上下ノ便利ヲ營ムルハ須カラ
ク^{第二十四}條ニ掲ホスル所ノ結社順序ヲ蹈ミ官ノ承認
准^レテ得テ之ヲ創スベシ但シ其官許シ請フニ當テ
ハ須カラク明細書ヲ撰テ左ノ條件ヲ詳載シ以テ政

府へ差出スヘシ

第一節 企テタル會社ノ名称

第二節 結社ノ事業又ハ目的 即チ鐵道引請ノ如キ此社ヲ結フノ所以ヲ云フ

第三節 發起人又ハ主者ノ姓名身許職業居住等

第四節 會社永續ノ期限但シ二十年ヲ過クルヲ得テ尤モ其時ノ景況ニ因リ更ニ延期ノ願續キソ為スコトヲ得ルモノトス

第五節 推宜會社ヲ設立シ其事務ヲ取扱フ可ノ場所

第六節 會社ヲ結構スル為メニ推宜掛リ合タル支配

人又ハ肝煎 第一節 姓名居住職業身許等

ニ是等諸人ノ斯ク同意シタル所以及ヒ銘々ヨリ差出シタル證據人何レモ銘々連署押印シタル所ノ約定

又ハ一致書即チ會社ノ為メニ心カヲ盡シ一點モ私ヲ扶マヌ若シ之レニ背カハ若干ノ違約金ヲ差出スヘキ等ノ旨趣ヲ誓約シタルモノヲ差出スヘシ但シ此書付ニハ證據印紙ヲ貼用スルニ及ハス

第七節 出金者ノ姓名居住職業身許等

第八節 見込ミタル資本金ノ總額

第九節 株券并ニ之ヲ區分スヘキ總額及ヒ引請人

名等但し其番子ハ此引請人名ノ上ニ掲載スヘシ
第十節 官許ヲ得ル迄ノ間ニ右ノ明細書ノケ条
ヲ増加シ又ハ之ヲ更改シタル所ノ書上

第十條 結社上願ノ節ハ其事業ノ性ニカナルトシレカ
為メ釀ス所ノ通患ヲ保護救護セシムル為メニ會社其
資本金ノ内ヨリ若干ノ請合金第十二節ヲ參考スヘシヲ政府ニ納置
クヘシ

但し此金高ハ須カラク假株券ノ引請人ヨリ初發拂
込マシムヘキ第十二節ニ詳ラカテリ然高ニ下ラサルヲ以テ定限トナ
スヘシ若又前折ノ手續ヲ為サル會社即チ此株券ヲ發行スルヲ待タ

スレテ直チニ官許ヲ得
真券ヲ用ユルモノヲ云フ
アルキハ二百五十分ノ一ヲ以テ定限ト
ナスヘシ

第十一條 社員 即チ一社ノ主人ニシテ此會社ヲ創立シ或ハ其事務ヲ處分シ
風ニ社衆ノ默許推戴ヲ得テ常ニ事業ノ得失盛衰ニ任
スル者即チ發起人支配人其他事務
評議ニ局ノ役員ト成ルヘキ者是レナリ 株主 即チ持券
ノ區別ヲ

立テ其位地責任ヲ分チ其關係連累ヲ定ムヘシ譬ハ
社員タル者ハ如何ナル身許アリテ幾何ノ資本ヲ用意シ
或ハ若干ノ株券ヲ引請ケ事務會議上ニシテ幾多擔
當發言ノ権理ヲ有スル等及連債其他ルソ取引
上ニ就テ法別ヲ破リ 犯法
約束ヲ踏マサ 破産等 處置アルキハ幾分ノ其資本ニ任
ルモノヲ云フ 如キモノヲ制定ス
スル等即チ有限無限會社類ハ

鎖店 種々ノ事故アリテ
其事業ヲ廢停
スルヲ
云フ

ルヲ云^レ且^ツ又株主ハ株券一箇以上ヲ引請ケ如何ナル地位ニ居リ事業ノ景況ニ因テ幾分ノ關係喜戚ヲナス者^モ等ノ類ヲ制定スル是レナリ

第十二条 第二條掲載スル所ノ旨趣ニ基キ社員ノ精選尤モ以テ肝要タルヘシ而シテ外國人ハ社員タルヲ許サルノミナラス又株主ト成リ及ビ株券ノ賣買貸入等ニ關預スルヲ許サルヘシ

第十三条 左ノ條件旨趣ニ體シ相當ノ人物ヲ選任シ其職制權限及ビ關係賣買等ヲ定メ以テ會社一切ノ事務取扱ハシムヘシ

第一節 支配人又ハ肝要等ノ如キ會社主任ノ職掌ヲ設置スヘシ但シ其名稱ハ一ニ會社ノ便ニ任セ其人員ハ則チ三名以下ニ下ラサルヘシ且ツ初任新任ノ節ハ其姓名居住身許職業ハ勿論其所用ノ印鑑ヲ添ヘ時々其助ヘ届出ルモノトスヘシ

第二節 是等職掌ニ任用セラルモノ、適否條例ノ定ムヘシ譬ヘハ其信ヲ公私一般ニ表スヘキ為メ是等諸人ハ須カラク株券若干以上ヲ引請ルモノニシテ自他會社体ノ商業ヲ営ムヘカラサル等ヲ制定スル是ナリ

第三節 右等役員ノ在職ハ別段ノ事故犯法破則等
ルハカヲサルノ
罪累アルヲ云フルニ非サレハ須カラク通常會議前後

ノ時間新撰再任ノ舉アルヲ以テ交代ノ定期ト

為スヘシ第十四条ヲ
参考スヘシ

第四節 此役員ハ會社一切ノ事務并ニ社中重之ニ

一 彼ノ眾議ヲ經テ制定スル所ノ條件ヲ擔當處

ハカスルヲ當手ルノ主任タルモノトスヘシ今其事件ノ

梗概ヲ左ニ掲ケ因テ以テ制定スル所アラシム

一 會社平素中ノ諸務

一 公私内外ヘ應酬報告ノ事件

一 彼負中集會評議ノ規則章程

一定例金錢ノ出納并其取締

右件々主任者擔當區處アル所ノ事務トス

一 凡ソ會社辦用ノ為メ新ニ貸借ノ條約ヲ

結フ事

一 會社ニ遊金又ハ過分ノ益金アルキ新ニ

之レカ融通ヲ謀ル事

一 第四節第三節ニ掲ケル所ノ如ク新ニ事業蔓

延ノ舉ニ從事スル事

右件々眾議ヲ經テ所置スル事件トス

第五節 凡ソ金錢出納益金配當上ニ就テ是等
役員女子ニ規則ヲ犯シ及ヒ怠惰偏頗ノ舉動
アルヤノ責罰ヲ定ムヘシ譬ハ他ヘ金錢ヲ渡シ其
請取ノ證據ト為スヘキモノナキハ其取扱人ヨリ之ヲ
償ナハシメ及ヒ益金配當ニ就テ依怙ヲ構ヘ私ツテシ
タルハ其金額ノ幾許ヲ拂ハシムル等凡ソ會社
限リニテ定ムヘキ責罰ニ定レナリ

第六節 第四條第二節ノ旨趣ニ基ツキ監察又ハ
檢人ノ職ヲ置キ社員ノ中ヨリ其人ヲ選任シ以テ公
私内外鐵道出張局及
會社ヲ指スニ出入關係シ其非違ヲ監察

シ及ヒ凡ソ金錢出納上ニ於テ之レカ立會見分ソ
事トラシムヘシ

第七節 書記勘定方職ヲ置キ其人ヲ選任スヘシ
但是等ノ人員ハ終始支配人又ハ肝要ノ差圖ヲ
奉スヘキ者ナレハ他ヨリ雇入ル社員殊主ニ非ストモ之
レニ任選シテ可ナリ

第十四條 社中ノ事務ヲシテ公平至當又ハ嚴密ト重ニ歸
セシムル為メ左ノ條件旨趣ニ依リ社中一般ノ衆議制ヲ
設クヘシ

第一節 毎年二回定例會議ヲ開キ新聞紙其他

ノ方法ヲ以テ其主任支配人又ハ肝煎ヲ以テ之下之ニ依ヘヨリ三月
以前ニ其場所期日ヲ報告スヘシ但シ此集會ヲ
評議定制スル事件左ノ如シ

- 一主任者始メノ撰任人員期限及ヒ其給料
- 一會社凡百事務上ノ變通改正
- 一諸勘定ノ檢査
- 一益金ノ配當割合

第二節 右ニ掲ケタル條件ノ外ハ更ニ臨時會議ヲ
設ケ之ヲ處分スルモノトス而シテ其事起ル毎ニ主
任者ヨリ廻文又ハ書翰ヲ以テ其事柄ト日限地

右ノ社中へ報告シ速カニ之ヲ開クモノトスヘシ

但シ此會議ハ社中十人以上ノ申立ニ因リ主任
者之ヲ適當ナリト思考シ然後之ヲ開クヘシ
故ニ其申立書ハ能ク其旨趣ヲ明カニ以テ會
社書記局へ差出スヘシ而シテ此會議ノ開否ハ
勿論其中立ノ旨趣ニ因ルヘシ

第三節 此ノ會議ニ就テ差向キ制定スヘキ件々之ヲ
左ニ掲ク

- 一會長又ハ頭取ノ設置及ヒ其交代期限
- 一會議出席ノ手續暨ハ出席ノ面々ハ會

日ノ前日何時迄ニ其姓名居住及ヒ姓名ノ上ニ
所持ノ株數ヲ書記シメル名札ヲ某所ヘ差出
スヘキトシ若シ同時迄ニ名札ヲ差出サルモノハ
此會議ニ加ハラサルモノトシ尤モ其人ハ此會議
ニテ決定シメル所ノ事件ニ就テ後日異論アル
ヘカウサル等ノ類ヲ制定スル是レナリ

但シ本文ニ準シ代人ヲ以テ此會ニ列セシムルモ
ノハ其本人ヨリ断書ヲ添ヘ其名札ト一同之ヲ
差出スヘシ等ノ制ヲモ一同制定スヘシ

一代人差出ハ制辟ヘハ遠在ノ社中ハ兼テ會社

ノ地方ニ於テ代理人ヲ定メテ之ヲ其節ヘ届出ラヌ
ハ其時々本人ヨリ其代人ヘ断書ヲ添ヘ其名札
ト一同之ヲ差出ス等ノ制是レナリ

一會議坐中ノ規則譬ヘハ列坐ノ間ハ総テ會長
又ハ頭取ノ指圖ヲ奉シ及ヒ是ホ人々其席ニ
在ラサルハ瑣事ヲ以テ論議スヘカウサル等ノ
規則ヲ立ツル是レナリ

一會議ノ時間

一出席人數ノ多少ニ因テ會議ノ開否及ヒ延
引ノ制

一社中不各ノ面々ハ決議件ノ報告

一入札ノ法研ハ某方法ヲ以テ入札ヲ致シ其多

キニ因テ議事ヲ決シ若シ異同等分ナルハ

會長又ハ頭取ノ發言ニ因テ之ヲ決スル等

ヲ制定スル是レナリ

一決議事件ノ記載研ハ決断シタル事件ハ之

ヲ某帳面ニ記シ同意ノ者之レニ調印シ後證

供スル等ヲ制定スル是レナリ

一社中婦女并ニ幼弱或ハ狂氣ホニテ人事ヲ

辨ヘサル者ハ後見又ハ受託人等會議列席

ノ制

第四節 定例會議臨時會議トモ其會議ヲ

ルキニ大藏工部二省ノ官員兩三名其席

ニ臨ミ其得失利ニ病ヲ陳論シ其出納供給

ヲ審覆スヘシ

第十五條 一社資本ノ金ヲ募集シ世間元入ノ道ヲ疏通

スル為メ此會社ハ左ノ条件皆趣ニ依シ其株式ヲ發

行スルヲ得ヘシ

第一節 株券ハ利札附證書ニ致シ歐米各邦ノ所

用ニ換倣シテ之ヲ精微下重ニ拵ユヘシ尤モ其賴

ニ依リ其費ヲ辨スルキハ紙幣寮ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

第二節 此株券ノ名額 即チ券面記載スル所ノ金高 ハ一箇百圓ニ

下ルヘカラスト雖モ社中ノ便宜ニ因リ之ヲ令併シテ

五石圓千圓ノモノヲ發行スルモ可ナリ

第三節 此株券ハ勿論賣買スルヲ許ルニ外國人ヲ

除ク外全國中ノ人民何レノ府縣ニ屬スルモノト

雖モ之ヲ所持スルノ理アルモノトスヘシ

第四節 此株券ハ會社其官許ヲ得ルノ前後ニ因テ

其稱呼ヲ異ニシ其順序ヲ踏ニテ其處分ヲ為ス

ヘシ譬ヘハ官許ヲ得ルノ以前ハ推宜ノ稱呼即チ

募金手形又ハ假株券ノ名字ヲ用ヒ之ヲ世間ニ

發行シ望ミノモノラシテ其名額ノ若干 凡ソ百分ノ一又ハ百五十分ノ

一ニ以テヲ得意ノ銀行ヘ 第四條第四節及ヒ 拂込

マシメ一旦官許ノ後更ニ定メ稱呼即チ株券

ノ名字ヲ下シ以テ新舊交換ノ事務從カヒ更ニ

期限ヲ立テ所持ノ人々ツシテ逐次其金額ヲ

皆納セシムル等ノ處分是レナリ 第二十條推宜手形ノ注ヲ參考スヘシ

第五節 株券書込ニ及ヒ其賣買讓與或ハ書入

質入 等 就テ左ノ条件皆趣ニ依リ其ノ方法

規則ヲ設ケ其書法雛形ヲ定ムヘシ而シテ之レカ
為メ一定ノ帳簿即チ株券書ニ又ハ授受ヲ制スル
名簿ノ如キモノヲ云フ到底證書同様ノ楯ニ致シ各人兼知印ヲ押シ相
當ノ證印紙ヲ貼用シ云々ノ法則ヲ奉シ其者
ノ相續人又ハ後見又ハ受託人タリトモ之ヲ引請
ケテ本人同様ノ責累ニ任スル等ノ手續ヲ為シ置
クヘシ

一 二 綴書込ノ方法

一 數人合併シテ一株ヲ引受クルモノノ方法譬ハ
十人各金十圓ヲ出シ合併シテ百圓ト成ル

然ルモ其内一人ノ名前ヲ會社又ハ銀行ニ
書出し之ヲ名テ某ト云フ即チ株名前主
ト云フノ類會
社又銀行ハ此某人相手ニ益金分配等諸般
ノ取扱ヲ為スルニテ合併ノ人員幾名アル
トモ又其合併人員中何種ノ事故ヲ生スルトモ
更ニ會社又銀行ニ於テ關係スルヲナシ等シ
制定スル是レナリ

一 株券賣買讓與及ヒ書入借入等ニ就テ
ノ書付雛形

一 同新ニ就テノ開届人及ヒ其書留ノ方法

手續

一 同断ニ就テノ時間日數譬ヘハ賣買ニ從事
 スルコトハ會社其官許ラ得ルノ後以テ定
 限トシ及ヒ其讓與等ハ定例會議前發
 日或ハ臨時會議ヲ報告シタル日ヨリ會議
 濟迄ハ是等處分ヲ差止ムル等ノ制限ヲ立
 ワル是レナリ

一 株主死セシ疾病又ハ事故アリテ退身シ其
 子幼弱ナルカ婦女ナルカニテ社中ノ通議ヲ
 行フコト能ハサル者^モト爲メニ其所持株券ヲ處

分スルコト法譬ヘハ先社員又先株主ノ讓渡
 シナキ株ハ決シテ他ヘ改移セズ相續人ハ幼少
 或ハ婦女ニテモ連綿其株主タルヘキ等ヲ制
 定スル是レナリ

但シ株主死セシ發狂等ノ變故アルモ等改
 名轉當等報知ノ手續時間譬ヘハ是
 等變故ノ即ハ親族ノ者ヨリ連ニ會社
 ニ報知セシメ改名等ノ即モ當人ヨリ遅ク
 トモ三十日以内ニ之ヲ報知スヘシ等ノ制是
 ナリ

第十六條 収入益金ノ名實并ニ其分配供給ノ割合及ヒ其方法時限ヲ定ムヘシ
其ハ収入益金ノ中ヨリ運轉修繕雜費并ニ給料其他凡ソ鐵道ニ屬スル諸入費ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益又ハ真益金トシ幾何ノ割合并ヒニ年何度ノ時限ヲ以テ某銀行又ハ會社ノ手ヨリ諸株主ヘ分配スル等ヲ制定スル是レ也

第十七條 次年必要ノ運轉諸費并ニ債主又株主ヘノ分配及ヒ非常ノ預備等ノ為メ會社其資本金又ハ其他ノ助ヨリ若干ノ金額ヲ用意シ庶テ之ヲ銀行ヘ備ヘ置クヘシ

第十八條 第二條第十節ノ旨趣ニ基ツキ上條掲載スル

所ノ件々會社ノ募金株券ノ發行ヲ始メ實價額ノ支消^{鐵道代價ヲ政府ヘ}及ヒ利益ノ分配費用ノ供給等ニ至ル迄凡ソ事金銀ノ出納交換ニ關カルモノハ須カラク得意ノ銀行ニ依頼シ其手ヲ經テ之ヲ處分スヘシ而シテ此銀行ハ常ニ政府ノ承認指麾ヲ待テ是等事務ヲ取扱フモノトス故ニ倘シ會社其要需ノ金額ヲ一時蓄集シ又ハ用意スル能ハサル歟又或ハ萬一非常ノ雜費高クテ用意金ノ中ヨリ支給スル能ハサルハ銀行ノ思慮ニ因リ政府ノ承認ヲ得

テ之レカ貸借交換等ノ優分ヲ為スヲ得ヘシ

第十九条 前条ノ如ク此銀行ト手ヲ結ヒ右等優分ヲ為スニ於テハ第一是レト申合凡百ノ出納勘定上ニ於テ詳ラカニ約束ヲ設ケ四限ニ限界ヲ定テ到底彼此混ヒス條貫ヲ系サルヲ要スヘシ

第二十条 公私内外ノ點檢觀察ニ供スル為メ諸勘定ノ帳簿又ハ計表ヲ明細簡潔ニ括ラヘ置クヘシ而シテ此帳簿計表ハ毎月又ハ四季毎トニ正副二様ヲ製シ正ハ主管官府大藏省ニ差出し副ハ會社ニ所藏シ以テ種々ノ需用ニ供スヘシ

第二十一条 會社ノ平常事務取扱振テ制定スヘシ譬ヘハ某事務ハ某職之ヲ管理スル等ノ制ヲ始メ會社ニ關セシ某事件ハ會社ノ稱號其外ハ主任者ノ職名或ハ姓名ヲ以テ施設シ記載編輯ノ帳簿并ニ往復報告ノ書狀廻文ハ社名印刻ノ料紙又ハ封紙ヲ用ユル等及ヒ會社ニ關スル事件ハ一切書付ヲ以テ證據トシ些細ノ事々リトモ言葉ノ取替シヲ為スヘカラス若シ言葉ノ取替シヲ為シ他日如何様ノ苦情口論起ルトモ決テ採用セサル等ノ類ヲ制定スル是レナリ

第二十二条 公私内外ヘ報告ノ制ヲ定ムヘシ即チ主管ノ

官府へ差出スヘキ稟報ハ毎年幾次某ノ題號等
ヲ以テ番ヲ逐ニ摺出し及ヒ社中へノ報告ハ若干名宛
組合ヲ立テ年番ヲ置キ連名ノ廻文ニ致シ郵便ヲ以
テ之レニ差向ケ遠隔ノ地ヘハ其當人ノ名宛ヲ各自
ニ報達スル等ノ制ヲ定ムル是レナリ

第廿三条 此會社ハ須カラク左ニ掲ル所ノ部類ニ照シテ諸
帳簿ヲ類輯シ以テ之ヲ備ヘ置クヘシ

第一節 第九條第五節ニ記載スル所ノ約定又ハ一
致書

第二節 第十五條第五節同前ノ株式書込又ハ授

受 簿

第三節 第十九條同前ノ諸勘定明細帳

第四節 第二十一條同前ノ報告録

第五節 益金分配ニ就テノ勘定帳

第六節 都テ鐵道事務及ヒ會社ノ事ニ就テ官
ヨリ布告并ニ達書及ヒ願書ヘ附紙又ハ朱書ニ

テ^下可^知ニ成リタル分ヲ記録編纂シテ記録即チ
御布告御達録ノ如キ是レナリ

第七節 前節ノ事件ニ就キ官府へ御届書ノ寫
ヲ留ムルモノ即チ御届書控ノ類是レナリ

第八節 定例會議トモ集會人名并ニ議事決

未決ノ条件顛末等其年月日ノ順序ヲ逐

々之ヲ詳記シタルモノ即チ會議要件録ノ類是ナリ

第九節 支配人又ハ肝煎ヲ始メ諸掛リノ進退任

撰等ヲ詳載シタルモノ即チ役員進退録ノ類是ナリ

第十節 會社ノ事務ニ關シタル往復ノ書翰等此

細ノ事タリトモ綴ラズ綴込ニタル書類

第二十四條 若夫レ會社ヲ結構スルノ手續ハ最初發起

人又ハ主者七人以上申合ハセ銘々ノ身許ヲ申明シ

各若干ノ金ヲ出シ

此出金ハ無テ其所持金ヲ預ク置クカ又ハ所
謂權宜手形ヲ引請テ其實額ヲ出金スル

敷又ハ相當ノ財産ヲ抵當トシテ銀行ヨリ取替ノ信用ヲ得置クカ其他
何レノ方法ニテモ現實ノ資本トナルヘキ金額ヲ具テ下云云々

ノ功効ヲ奏スルニ
是ハ則チ可ナリ之ヲ得意ノ銀行ニ積立テ立社ノ次頁本

基趾ト為シ以テ倡導ノ端ヲ開キ召募ノ礎ヲ立テ之ヲ

公私一般へ對シ其信ヲ徵シ其重キヲ取ルノ順序ヲ

為スヘシ

但シ此積金ハ持ニ是等云々ノ為メニナラス現地ノ處分ニ於テ
會社未タ官許前既ニ權宜募集スル所ノ員額アリ

成ラサルハ一々之ヲ返償セサルヲ得ス(下文權宜手形ノ注ヲ參考ス)其
他政府へ差出スヘキ請合金ノ類アリ(第十條ニ詳カキ)以テ支供ノ源無

カルヘラス則チ此積金ヲ以テ是等ノ續テ見込書(第十條ニ
用ニ供スル亦會社ノ通宜ト謂フヘシ)續テ見込書(第十條ニ
詳カキ)ヲ

拮据ニ權宜手形即チ第十條第四節云々所ノ權宜募金
手形ニシテ是レハ會社其官許ヲ得ル以前ニ

權リノ支配人ヨリ世間ニ發行シ望ミヲ有ラシテ之ヲ引請ケ初發其名額
ヲ相當ノ銀行ニ拂込メ其請取ニシテ此銀行ヨリ典元所ノ證書即チ
是レナリ而此儘株式取引所ノ賣買ニ供シ其券同様ノ重キヲ為スモノ
往々是レアリ但シ此場合ニ於テハ此手形ハ單ニ后日會社一立ノ時異

儀ナリ其分前ニ開カルヘシトノ證據ニシテ其之ヲ賣買スルハ即チ商
 賣取組證券ノ引請ケ又ハ譲リ渡シ同様ニ見做スナリ而シテ且會社官許
 ノ後ハ是等引請人ヲシテ會社ノ書記局ニ持出ラシメ其姓名并ニ夫々
 ノ金額ヲ記載シ其券ヲ以テ之ヲ引換ヘ更ニ之シカ期限ヲ設ケ是等々々
 ヲシテ逐次其金額ヲ拂込マシメ其金分皆濟ニ至テ止ムモノトシテ蓋
 シ事業ノ得失ヲトシテ結社者自當ノ信ヲ徵シ世間應集ノ實ヲ試
 ミ政府ノ裁決准允ヲ請フノ順ニ序ヲ為スルニ故ニ若シ事故アリテ會社成
 立セザルヤハ此引請人々ヨリ拂込ミシ金額ハ夫々會社ヨリ返ラシ其手
 ヲ取消スモノトス蓋シ此返償ノ目途ハ會社ノ宜シク預定スベキ所ニ在ルヘシ
 即チ前文分註掲クル所積金カノ上ニ基キ到底其時ニ臨テ鹵莽遺失
 ナキヲ要スヘシ
 之ヲ發行シ何レモ新聞紙其他ヲ以テ世間ニ報知
 之以テ同志ノ召集及ヒ募金ノ現業ニ從事スヘシ勿論
 此際ニ當テハ何レモ權宜ノ措ヲ以テシ株券ハ既ニ如
 此ノ名實ニ從カニ主任ノ役員モ亦當分ノ在職トシ
 追テ官許ノ後社中一統ノ初會ヲ待テ任選ノ制ヲ

議定シ然後其人ヲ新選シ支配人又ハ肝煎トナスヘシ
 其他資本金ノ如キモ亦ヨリ初發中創ノ際ナレハ必シ
 現存ノ實額アルヲ要セス唯其所有ノ所備ノ實件
 額數
釀集券集ノ金額并ニ其子細及ヒ於當ノ財產等ヲ云フ
 譬ヘハ若干ノ額ハ社員某ヨリ現金又其外ハ某種類ノ財產
於當リ以テ既ニ積立テ又或ハ權宜手形ヲ引請クヘキ目途及ヒ其他
 ノ方法ニテ漸次積立ツヘキ慮統計現額幾何又ハ前途ノ見込者等ノ
如キ是并ニ發行手形ノ方法
譬ヘハ引請人ヨリ某銀行ヘ名額
 レナリ番號雜形及ヒ其引
等ノ類
 ノ如シ名數
幾何ツノ名額ニシテ
 都合何程等ノ類ヲ云フ番號雜形及ヒ其引
 請人名且ツ其濟未濟ノ金數向後取立ノ日限等ヲ
 詳ラカニ記載スルノモ其他第九條掲クル所ノ事物
 條件凡ソ一成シテ所謂會社規則ノ稱ヲ得以テ政府

ノ檢閲裁決ニ供スルモノ固ヨリ以テ網羅記載同時
 制定ニ毫モ疎漏汗漫ノ患ナカルヘシ勿論此際ニ當
 テハ是等諸般ノ取扱ハ一切結社者ノ手ニ在テ政
 府ニ於テ毫モ關係スル所アラズ唯第十條初クル所
 ノ請合金ヲ預カリ置キ及ヒ第百六條ノ旨趣ニ基ツキ
 改正準允等ニ從事スルノ二舉アルノミ即チ此際ニ
 當テハ未タ稱~~定~~一定ノ會社ト稱スルヲ得ヌ又真正
 持久ノ株券ト謂グヲ得ヌ其實ハ則チ是等特~~定~~順
 序ヲ踰ミ摺掣ヲ逾ヘ以テ大ニ其欲スル所ヲ得ントスル
 ノ^{ニ區}即チ會社ノ成否事業ノ得失ヲ公私内外ニ徴シ

隨テ召集召募ノ實ヲ試ミ裁決准允ヲ得ルノ手續ヲ
 為スノ謂ナリ蓋シ會社結構ノ目的金ヲ募リ入リ
 集ムルヨリ先~~要~~要ナルハナシ故ニ如此ナラスニハ則チ其玩
 地施設ノ際ニ當テ之レガ目途ヲ立テ之レガ約束ヲ定
 メ之レガ規則方法ヲ制シ以テ政府ノ裁決准允ヲ請フ
 能ハサルナリ然而ノ從來會社ヲ設立シ株式ヲ發行セ
 ント欲スルモノ動モスレハ是等順序ヲ錯乱セルノ召集
 召募等ノ舉ニ於テ既ニ事實信標ノ以テ公私一般ニ
 著見貫徹スルモノナルナリ徒ラニ紙上ノ規則ニ依リ
 以テ事ニ官許請求ノ舉ニ從カフモノ往々是レアリ而ノ

政府ハ則チ又素ヨリ一定規則ヲ因テ以テ照準裁決
スヘキモノアルナク上下相弊ハ彼此交リ徳ツ宜ナリ
其弊ノ至ル所會社當ニ其許可ヲ得ル能ハルノミ
ナラス或ハ半途ニ廢シ或ハ鹵莽振ハサルニ至ル故ニ
今其順序ヲ丁寧シ一ハ因テ以テ之ヲ制定シ一ハ因テ
以テ之ヲ裁決スル所アラシムル如此ト云再

第二十五條 此會社ヲ建立スルノ際ニ當テ其尤モ心ヲ用ユ
キモノハ公私一般流布ノ見込書 事業ノ目的方法及見
金ノ總額其他結社必要ノ事 本雛形繪圖并ニ資本
物ヲ記載シタル書附リトス 又ハ是等ノ報告是レナリ蓋
シ倡募者召集ノ際會社ノ信ヲ標シ重キヲ取ル是レ

ヨリ至重要ナルモノナシ故ニ此一着ニ於テ世間ノ信用ヲ取
リ政府ノ許可ヲ得ル能ハサル代ハ當ニ事成ラサルノミ
ナラス其既ニ權宜 假殊券又權宜募金手形ヲ以テスル
所ラ云フ第 五條ノ如クモ亦ハ 抑又立社所
スル所ノ金額ハ夫ク之ヲ返償セサルヘカラス 抑又立社所
要ノ物件結社者ノ宜シク慎重拮据スヘク所在
ヘシ

第二十六條 結社者倘シ權宜手形ニテ之充テテ券金出來
サルト見込ムキハ更ニ政府ノ許可ヲ乞ヒ別種 株式
ヲ發行シ以テ其不足ヲ補フテ可ナリ尤モ此場合ニ於
テハ金々社員中ノ借金ニシテ必ス之カ期限ヲ立テ其

元利ヲ返償スルモノトス而シテ此借金ハ前所ノ株式ヲ
發行シ了リ猶才不足アルキノ處分タルヘシ且ツ返償
期限ハ成丈短近ナルヲ以テ可トスルモノナレハ收入ノ益
金過分ノ見込ミアル歟又ハ慥カナル返辦ノ日途一定
スルニ非サレハ容易ニ之ヲ起コスコトアル能ハス尤モ双方
ノ示談ニ因リ之レカ利息ヲ拂ヒ更ニ其期限ヲ延
フルハ貸主借主ノ勝手タルヘシ

第二十七條 此會社ノ管轄ハ大藏省ニ屬シ而シテ鐵道
配ノ事務ハ工部省ニ屬スルモノトス故ニ會社創立買
収上願ノ聲アルヤハ始メニ大藏省ニ於テ其上申書

案規則章程等ヲ檢閲詮議シ工部省合評ノ上
之レカ裁決准允ヲ為シ而シテ鐵道ハ沿革景況及其
配規則亦凡ソ右ノ物件書類ハ一切工部省ニ於
テ之レカ調理編纂ヲ遂ケ以テ結社者ノ需用參觀ニ
供スルモノトス

第二十八條 右件々ノ順序ヲ追ヒ精査ノ拮据ヲ遂ケ所
謂會社規則ヲ制定シ政府へ伺出ツルニ及ニテハ其
主局之レカ可否ヲ審察熟察シ其准允ヲ與タヘ
以テ一定ノ會社ト為スヘシ然ル上ハ凡ソ云為施設
即チ上申報告訴訟等ノ如キ一切會社ノ名称印

判リ以テ公然從事スルコト得ルモノトス但シ此會社
 ハ官ノ事業ヲ引請ケ是レト手ヲ結ヒ事ヲ共ニスル
 ニ於テハ彼此ノ交關固ヨリ以テ鮮少ナラサルハ是レ以
 テ具狀上願ノ日ニ當テハ官詳ラカニ之レカ情形
 シ察シ深ク其事實ヲ照ラシ取舍斟酌改正折
 衷ノ舉ヲキ能ハス故ニ前所ノ規則ハ最初須カラク
 州案ノ指ヲ以テ政府ヘ差出シ大藏工部二省并ニ
 會社銀行ノ審察覆議ヲ遂ケ更ニ然ルヘキ議
 定書ヲ制定シ何レモ連署押印シ然後一定公行
 ノ舉ニ從事スヘシ

第二十九条 一旦此事ヲ舉クルニ及ニテ此成規ノ外猶才取

扱フヘキ事アラハ然ルヘキ審察外候議ヲ待テ之ヲ爰

通増減スルモ^カ且ツ此成規ハ差向キ鐵道賣却

為メニ權宜之ヲ設クルモノナレハ追テ會社條例^{即チ}

會社創立ノ成規定別ニシテ當時其主局ノ拮据^{ニ係リ}

追テ一成^ハ公然施行スルモノトス^{施行ノ上}

而彼此抵觸矛盾ノ慮アリト雖モ或ハ是^之別設並

行ノ成規トナシ^カ或ハ其時ニ臨^ニ改正斟酌等ノ舉ニ

從事^{スルカ}到底此事^ヲ適宜^ニ持久ナル^ヲ要^ステ止

ムベシ

大藏省